

## 財團法人 日本国際政治学会設立趣意書

国際政治学（インターナショナル・リレーションズ）は最も若い學問の一つであつて、歐米の學徒も、またわが国の學徒も、時を同じくしてその研究にスタートしたという珍らしい學問である。第一次大戰の直後から一齊に、この學の樹立のために發足したが、第二次大戰までには、やっとその基礎工事が出来上ったぐらいで、その講義や講座を設けた大學は世界中で實に數指に足らぬ有様であった。ところが戦後になると歐米並にわが國においてこの状況は全く一変した。特に米英では「インターナショナル・リレーションズ」は最も人氣ある流行の學問の一つとなり、ただすべての大學で盛んに講義されるばかりでなく、いたるところ、斯學の研究会や學會の設立を見るという異常な活況を呈するようになつた。わが國でも、ほとんどすべての大學で国際政治の講義や講座が実施されるようになり、数百に上る學徒が斯學の研究に従事するようになつた。しかるにもかかわらず、米英と違つて、わが國では、いまだ一つの独立の斯學の學會もなく、一つの専門の學術雑誌もないという現状である。

また學問的には国際政治学と最も密接な関係をもつ姉妹科學である外交史、即ち国際政治史にいたつては、戦前、わが國でも、一、二の帝国大學に、その講座が設けられ、二、三の専門の教授がその研究に従事していた。しかしその學徒の数の極めて少ないと、その根本研究に欠くことのできないわが國の外交文書集、その他の資料が殆ど全く整備、刊行されていないという貧困な状態にあつたので、わが國のこの學の發達の程度は、到底歐米のそれに及ばない。

い憾みがあつた。戦後にいたつて、この學も、国際政治学とともに多くの大學の課程に組み入れられ、講義されることはとなつた。しかしわが國では、この學についても、いまだ一つの独立の學會も、一つの専門雑誌もないことは国際政治学の場合と同然である。このように、国際政治学、国際政治史の分野で、一つの独立の學會もなく、一つの専門の學術雑誌もないというような時代遅れの状態は、もはや一日も許されねばならない。国際政治学、国際政治史、並にこれらに関連する国際経済学その他の諸學を世界的水準に到達させるために、全國の斯學の學徒と、斯學に関連する実務家と言論人とを糾合する一大學會を結成することこそは、目下の急務であると信ずる。學會の主たる事業として、研究の討議の場を廣く同学、同志の士に提供し、研究調査の成果を自由に發表する機関を整備し、かねて、學徒と実務家と言論人との親睦と協力を計ろうと期する。希くはこれによつて、われらは一日も早く、歐米の水準に追付き、さらにこれを凌駕して、世界文運の向上に貢献せんと誓うものである。広く天下の同学、同志の友人に訴え、その參加を希う。

（昭和31年12月22日 東京神田の学士会館に於ける日本国際政治学会創立総会で決定）